



瀬戸市美術館

一千余年の歴史と伝統をもつ「やきもの」のまち瀬戸市。その文化の発信拠点である瀬戸市文化センター内に瀬戸市美術館があります。昭和 57 年に開館した当館は、陶磁器はもちろんのこと、絵画、彫刻等美術作品全般の展示を行っています。オープン以来、常設展のほか、地元作家を中心とする様々な企画展を開催しながら瀬戸市の文化情報の発信を行ってきました。また収蔵品は瀬戸市にゆかりの深い作家を中心に陶芸・絵画・彫刻等約 1000 点以上を数えます。

目 次

- 愛知県博物館協会令和元年（平成 31 年）度総会のご報告 2
 - 令和元年度東海地区博物館連絡協議会・日本博物館協会東海支部総会のご報告 11
 - 表紙館のご紹介 12
-

愛知県博物館協会 令和元年（平成 31 年）度総会のご報告

愛知県博物館協会の令和元年度総会が 6 月 19 日（水）、愛知芸術文化センターにおいて開催され、参加館 52 館（委任状提出 40 館）、94 名の出席があった。当日の概要は下記の通りである。

なお、総会に先立ち、事務局より平成 30 年度に生じた経理の不祥事についての説明とお詫びがあった。

《総会》

1. 開会の辞
2. 会長あいさつ



南 雄介会長（愛知県美術館）



総会会場風景

3. 愛知県博物館協会表彰

下記の方々が、愛知県博物館協会より永年の業績に対する表彰を受けました。

神谷 浩氏（功労賞）	前 名古屋市博物館副館長
中野 裕子氏（功労賞）	博物館明治村主任学芸員
小島美智子氏（功労賞）	大府市歴史民俗資料館学芸員
三世 善徳氏（功労賞）	豊橋市美術博物館副館長兼事務長
鈴木 利昌氏（功労賞）	前 田原市博物館館長
四辻 秀紀氏（功労賞）	前 徳川美術館学芸部長



受彰者登壇風景

4. 議 題

議長（会長 愛知県美術館 館長 南 雄介氏）

議題1 平成30年度事業報告並びに決算報告について

1 研修会の実施

（1）愛知県博物館職員等研修会

・「新・文化財保護法とミュージアム」

日 時 平成30年12月18日（火） 午後1時30分～午後5時

会 場 刈谷市歴史博物館

参加者 107名

基調講演 文化庁 文化財資源活用課

文化財保存科学室 文化財調査官 宇田川 滋正氏

事例発表 愛知県美術館 保存担当学芸員 栗名 彩香氏

刈谷市歴史博物館 学芸員 長澤 慎二氏

（2）部門別研修会

・「郷土資料等の活用状況について」

日 時 平成31年2月14日（木） 午後1時30分～午後5時

会 場 北名古屋市東図書館・北名古屋市歴史民俗資料館「昭和日常博物館」

参加者 37名

講 師 北名古屋市歴史民俗資料館「昭和日常博物館」 館長 市橋 芳則氏

豊田市郷土資料館 学芸員 名和 奈美氏

北名古屋市歴史民俗資料館「昭和日常博物館」 学芸員 伊藤 明良氏

・「資料の収蔵について」

日 時 平成31年3月13日（水） 午後1時30分～午後5時

会 場 トヨタ産業技術記念館

参加者 41名

講 師 愛知県陶磁美術館 主任学芸員 田村 哲氏

碧南市海浜水族館 副館長 地村 佳純氏

豊橋市自然史博物館 学芸員 一田 昌宏氏

豊田市郷土資料館 学芸員 山田 佳美氏

トヨタ産業技術記念館 学芸員 木村 雅人氏

2 表 彰

愛知県博物館協会表彰規程に基づく表彰（表彰者5名）

3 印刷物の作成・配布

「おでかけガイド」 年2回発行（秋・春）

4 協会報編集

「愛知の博物館」をWEB上にて公開（PDF版） 年2回発行（No.108、109）

5 ホームページの運営

「愛知県博物館協会」を随時更新の上公開

6 災害発生時における支援活動要領に基づく災害対策訓練

会長館（名古屋市博物館）を軸として、災害を想定した非常連絡訓練を平成30年11月に実施した。また、奈良国立博物館で行われた中部・近畿文化財防災連絡会議に、愛知県美術館・名古屋市科学館・名古屋市博物館の学芸員が出席した。

加えて更なるネットワークの強化が検討された。

7 その他会議等

・理事会及び総会、記念講演会

日 時 平成30年6月14日（木）

会 場 名古屋市科学館

記念講演会

「浜松市における文化財と観光の取り組み」

講 師 浜松市文化財課 鈴木 一有氏

・実行委員会（8回開催）

平成30年4月24日（火） 会場 愛知芸術文化センター

平成30年度事業計画と役割分担、協会表彰 他

平成30年5月23日（水） 会場 愛知芸術文化センター

平成30年度理事会・総会の内容確認、及び資料・役割分担、災害対策 他

平成30年6月14日（木） 会場 名古屋市科学館

平成30年度理事会及び総会

平成30年7月26日（木） 会場 愛知芸術文化センター

平成30年度理事会・総会開催報告、職員研修会、災害対策 他

平成30年9月12日（木） 会場 愛知芸術文化センター

職員研修会、災害対策、表彰規程の改定 他

平成30年11月7日（水） 会場 愛知芸術文化センター

部門別研修会、職員研修会、災害対策 他

平成31年1月16日（水） 会場 熱田神宮宝物館

職員研修会実施報告、部門別研修会、災害対策 他

平成31年3月15日（金） 会場 愛知芸術文化センター

部門別研修会実施報告、平成31年度総会の講演、協会報、災害対策 他

議題2 令和元年（平成31年）度事業計画（案）並びに予算（案）について

1 事業

（1）記念講演会の実施

開催日 令和元年6月19日（水）

会 場 愛知芸術文化センター

（2）職員等研修会【担当：鳳来寺山自然科学博物館・博物館明治村・昭和美術館】

企画展などの見学会を実施

時 期 令和元年10月～11月（予定）

会 場 未定

（3）部門別研修会【担当：（研修1）名古屋市博物館・愛知県陶磁美術館・でんきの科学館】

【担当：（研修2）豊橋市自然史博物館、豊田市郷土資料館

岡崎市美術博物館】

調査・研究、教育・普及、保存・修復の3部門の内、2部門の研修会を実施

時 期 令和元年9月～令和2年2月で2回開催予定

会 場 未定（尾張地区・三河地区で1回ずつ開催予定）

(4) 表彰

愛知県博物館協会表彰規程に基づき、表彰を行う。(該当者6名)

実施日 令和元年6月19日(水)(総会において実施)

(5) 印刷物の編集・発行

・協会報「愛知の博物館」2回 WEB版(電子媒体発行)

【担当 秋季:熱田神宮宝物館 春季:徳川美術館】

・「おでかけガイド」2回発行

【担当 秋季:稲沢市荻須記念美術館

春季:東海市立平洲記念・郷土資料館】

(6) ホームページの運営

【担当:蟹江町歴史民俗資料館】

(7) 災害発生時の対応

非常連絡訓練の実施、並びにブロック館を軸とした体制の調整

(8) その他

・令和元年度東海地区博物館連絡協議会及び日本博物館協会東海支部総会
開催時期 令和元年8月7日(水)

会場 山梨県立博物館

・令和元年度東海三県博物館協会研究交流会

開催時期 令和元年秋頃

会場 未定(三重県担当)

2 会議

(1) 総会

期日 令和元年6月19日(水)

会場 愛知文化芸術センター12階 アートスペースA

(2) 理事会

期日 令和元年6月19日(水)

会場 愛知文化芸術センター12階 アートスペースA

(3) 実行委員会

随時 年間8回程度開催予定

議題3 愛知県博物館協会表彰規程の改定

表彰規程の改定について、実行委員会で議論がなされ、理事会において承認された事務局(案)を総会において説明、表彰推薦者の明文化、提出時期の変更が異議なく承認された。

議題4 愛知県博物館協会次期役員を選出

令和元年度をもって会長館以下、理事・監事館の任期が満了することを受け、事前に次期役員候補を募ったところ、各ブロック館においては輪番館より申請があり、事務局より説明、異議なく承認された。役員候補館は次頁の通り。

令和 2 年度～令和 3 年度 愛知県博物館協会役員候補

役職名	館（園）名	代表者名	備考
理事	名古屋市科学館	館長 瀨瀨 満	
〃	トヨタ博物館	館長 布垣 直昭	
〃	愛知県美術館	館長 南 雄介	
〃	一宮市博物館	館長 堀 尚志	
〃	熱田神宮宝物館	館長 大原 和生	
〃	岡崎市美術博物館	館長 榊原 悟	
〃	あま市美和町歴史民俗資料館	館長 鎌倉 崇志	
〃	昭和美術館	館長 柳澤 幸輝	
〃	でんきの科学館	館長 伊藤 佳起	
〃	知多市歴史博物館	館長 大橋 啓介	
〃	豊田市郷土資料館	館長 児玉 文彦	
〃	豊橋市美術博物館	館長 毛利伊知郎	
〃	名古屋市博物館	館長 三芳 研二	
〃	博物館明治村	館長 中川 武	
〃	新城市設楽原歴史資料館	館長 湯浅 大司	
監事	徳川美術館	館長 徳川 義崇	
〃	愛知県陶磁美術館	館長 玉山 哲郎	

5. 報 告

- ・愛知県博物館協会加盟館の動向について
 - ・退会 名古屋ポストン美術館（平成 30 年度退会）
 - ・新規加盟 瀬戸市美術館加盟館数：119 館（令和元年 6 月 19 日現在）
- ・東海地区博物館連絡協議会・東海三県博物館協会研究交流会について
令和元年度、東海地区博物館連絡協議会は山梨県が当番館、東海三県博物館協会研究交流会は三重県博物館協会が担当することとなった。

6. その他

特になし

7. 閉会の辞

[臨時総会の開催について]

本年度の総会では監査報告を行うことができませんでした。これは監事館 2 館のうちの 1 館から愛知県設置の 2 館に対する請求額に誤り（不足）があると指摘を受けたことによるものです。このことについて総会に諮った結果、昨年度にさかのぼって徴収すべきであるとの決議に至りました。そのため、昨年度の決算及び本年度の予算については、会費の差額分納金後に監事の監査報告を受けたうえで、郵送により臨時総会の開催及び議決を行うことになりました。臨時総会開催の結果、令和元年 9 月 2 日の締め切り日をもって加盟館の半数以上の承認により決議したことを報告します。

《記念講演会》

総会終了後、記念講演会を実施した。

演題 「未開の知」に触れる

—ユニバーサル・ミュージアムとは何か—

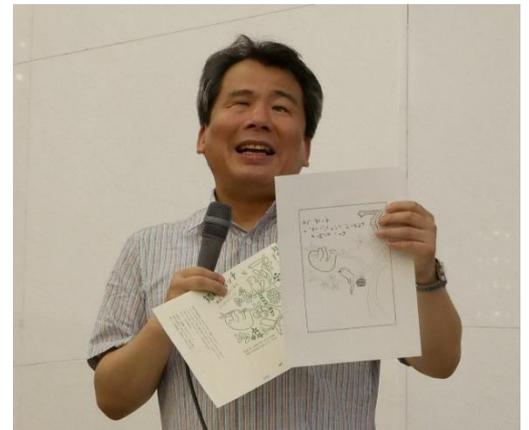
講師 広瀬 浩二郎氏

（国立民族学博物館 グローバル現象研究部 准教授）

今回の記念講演会は、視覚障害を持たれているご自身の立場から、健常者では想像もつかぬ持論を展開頂いた。私にとっては、その一言一句がとても腑に落ち、感銘し、そして、自分自身が悔しく、情けなく、涙を拭いながらの講演会となった。

結論を先に言えば、「ユニバーサル・ミュージアム」とは、「誰もが愉しめる博物館であること」と、広瀬氏は定義付けられた。健常者は、「見える道」を歩く。当たり前のことである。しかし、視覚障害者は道が見えない。視覚障害者の単独歩行は「筋書きのないドラマ」であり、まさに「道＝未知」、そして、それを拓いて行くのだと。とりあえず踏み出してみることが大事なのだと述べられた。

広瀬氏は冒頭、アントニオ猪木氏の「この道をどう行けばどうなるものか、危ぶむなかれ。危むべば道はなし。踏み出せばその一足が道となり、その一足が道となる。迷わず行けよ。行けばわかるさ」というセリフや、世界初の有人宇宙飛行に成功したユーリイ・ガガーリンの「どんな時代においても、人間の最高の幸福は、新しい発見に参加することであった」という発言に感化されたことを述べられた。つまりは、一步踏み出すことの勇気、また、常なる挑戦や、日常生活における発見。それを与えてくれるのが博物館のあるべき姿である、と



広瀬浩二郎氏

説かれた。

その博物館は、障害を持たれている方々に、どれだけの配慮を成しているのだろうか？これは自館の話であるが、過去に車椅子の方々が数名来館されたことがあった。当館はスロープもなく、人海戦術で7段の階段を上げ下ろしをさせて頂き…問題は見学時であった。解説をする際、車椅子の方々の視線でお話ししようと思ひ、しゃがんで同じ視線になり、「これはですね…」と話し始めて展示品に目を遣った処、斜台に陳列してある文化財は全く見えず…慌てて館蔵図録を取りに行き、「ここにはこれが展示してあるんですっ!!」と、図録を手解説を行ったこともあった。障害を持たれている方の気持ちを感じることはできたが、未だ改善はなされておらず、道半ばの状態である。では、視覚障害者への配慮はどうか。これも私自身、視覚障害者の方が来館され、説明して欲しいというリクエストを受けたことがあった。大きさや形状、どんな技法で制作され、どのように展示してあるか。私の知りうる限りの情報を伝えさせて頂いた。どれだけ感じて頂けたのだろうか…

相手の立場に立つことの大切さ。つまり、いかに相手の立場を知ることができるのか。これについて、広瀬氏は、「使わない感覚を持つこと」と説かれた。「無理かもしれないが、真っ暗な部屋の中や、アイマスクをつけて過ごしてみる。3日間も過ごせば、余裕も生まれるものだ」と…。また、広瀬氏は「無視覚流鑑賞」という言葉を編み出されている。すなわち、「無視覚流」とは「思い遣り」であると。この無視覚流鑑賞には6つの極意があるといい、「手・体・頭・口・心・人」を動かすことにより、さまざまな思いを交流・融合させ「思い遣り」に結び付けていくというものであると仰られた。そして、この「無視覚流鑑賞」をユニバーサル化させるには、「触れるように見る」鑑賞力の実現が必要だと述べられた。「確認」ではなく、手のひらで感じ、指先で細部を「探索」することにより、モノを鑑賞（イメージ）できるとのことである。このように「触れるように見る」鑑賞力を育てることが大切で、われわれ博物館従事者も「優しく丁寧に触れるマナー」を普及させることを念頭に、視覚障害者に対して探索して鑑賞を愉しむ一助を伝えることが大切であると再認識させられた。



山田寺仏頭（複製）の探索映像

更に、話しは核心に入り、「誰もが楽しめる博物館」から「誰もが働きやすい博物館」を構築させるべきである、と説かれた。

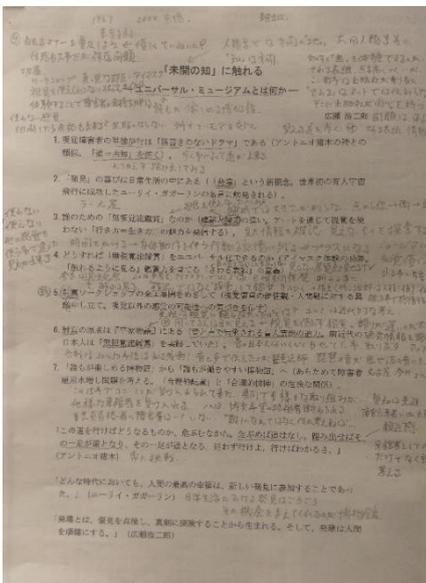
広瀬氏は言葉遊びも巧みで、先述した「道＝未知」、または「発見」は「発建」、「写真」ではなく「射真」と、ご自身の体験のもとから感じることを更に探求する行動力と洞察力に圧倒されることとなった。広瀬氏は、目が見えないことによって、逆に私どもが見えない大きく沢山の事象を心の眼でご覧になっているのだらうと感じた。

今回の講演を拝聴し、相手はどう思っているか、またはどう感じているのかということを考えながら接することの大切さを改めて痛感させられた貴重な1時間半の講演となった。

尚、記念講演会終了後、講師にも参加を頂き情報交換会が行われ、有意義な情報交換がなされた。

(熱田神宮宝物館 宝物係長 内田 雅之)

※注「障害者」の文字はレジユメにある文字をそのまま使用させて頂きました



令和元年度 愛知県博物館協会役員

役職名	館（園）名	代表者名	備考
理事	愛知県美術館	館長 南 雄介	会長
〃	トヨタ博物館	館長 布垣 直昭	副会長
〃	愛知県陶磁美術館	館長 玉山 哲郎	
〃	稲沢市荻須記念美術館	館長 山田 美佐子	
〃	熱田神宮宝物館	館長 大原 和生	
〃	岡崎市美術博物館	館長 榊原 悟	
〃	蟹江町歴史民俗資料館	館長 松井 督人	
〃	昭和美術館	館長 柳澤 幸輝	
〃	でんきの科学館	館長 伊藤 佳起	
〃	東海市立平洲記念館・郷土資料館	館長 立松 彰	
〃	豊田市郷土資料館	館長 児玉 文彦	
〃	豊橋市自然史博物館	事務長 仲井 慎治	
〃	名古屋市博物館	館長 三芳 研二	
〃	博物館明治村	館長 中川 武	
〃	鳳来寺山自然科学博物館	館長 加藤 貞亨	
監事	徳川美術館	館長 徳川 義崇	
〃	名古屋市科学館	館長 瀬瀬 満	

令和元年度 愛知県博物館協会実行委員

館（園）名	実行委員氏名	備考
愛知県美術館	黒田 和士	(会長館)
トヨタ博物館	藤井 麻希	(副会長館)
愛知県陶磁美術館	田村 哲	(会員館)
稲沢市荻須記念美術館	大原 万季	(")
熱田神宮宝物館	内田 雅之	(")
岡崎市美術博物館	板谷 寿美	(") 2019.4.1～
蟹江町歴史民俗資料館	花井 昂大	(")
昭和美術館	後藤 さち子	(")
でんきの科学館	河合 千織	(") 2019.4.1～
東海市立平洲記念館・郷土資料館	安津 由香里	(")
豊田市郷土資料館	倉林 重幸	(") 2019.4.1～
豊橋市自然史博物館	一田 昌宏	(")
名古屋市博物館	星子 桃子	(") 2019.4.1～
博物館明治村	王 雅寧 小野木克充	(") 2019.7.26～
鳳来寺山自然科学博物館	西村 拓真	(")
徳川美術館	長久 智子	(監事館) 2019.4.1～
名古屋市科学館	柏木 晴香	(")

愛知県博物館協会事務局

事務局長	古田 浩俊	愛知県美術館副館長
事務局	拝戸 雅彦	同館企画業務課長
〃	渡邊 仁	同館企画業務課長補佐
〃	岩田 三千代	同館企画業務課主査
〃	黒田 和士	同館企画業務課学芸員
〃	由良 濯	同館企画業務課学芸員
〃	深山 孝彰	同館美術課長
〃	森 美樹	同館美術課主任学芸員

令和元年度東海地区博物館連絡協議会・日本博物館協会東海支部総会のご報告

東海地区博物館連絡協議会・日本博物館協会東海支部の令和元年度総会が令和元年 8 月 7 日(水)、山梨県立博物館において開催された。当日の総会概要は以下のとおりである。

参加者内訳：日本博物館協会 1 名、山梨県教育委員会 3 名、愛知県 2 館 2 名、山梨県 11 館 26 名、神奈川県 4 館 6 名、岐阜県 2 館 2 名、静岡県 2 館 2 名 計 42 名

- 議題 1. 令和元年度理事及び監事の選任について
- 議題 2. 平成 30 年度事業報告及び決算報告について
- 議題 3. 令和元年度事業計画及び予算案について
- 議題 4. 令和 2 年度開催県について

上記議題は了承された。令和 2 年度の開催県は神奈川県で承認された。また総会に先立って開催された理事会において、当協議会の活動の充実について各理事から活発な発言があり、次回の総会でもシンポジウム等を開催するなど会の活動の活性化をさらに進める必要があるとの総括が会長よりあった。また、理事定数の不足している山梨県については来年度までに定数 3 を満たす報告を行うことが確認された。

総会に合わせて「博物館施設をめぐる昨今の諸課題への対応について」をテーマに、ミニシンポジウムが行われた。内容は以下のとおりである。

- 報告 1. 「大学機関における学芸員育成の現状と課題」
(西川広平氏 中央大学文学部准教授)
- 報告 2. 「地方博物館のリニューアルの実際について」
(八巻与志夫氏 釈迦堂遺跡博物館副館長)
- 報告 3. 「地域の文化財の保護活用と博物館」
(保阪太一氏 南アルプス教育委員会)

総会後は、山梨県立博物館で開催中の企画展「すごすぎる！ネコ展」の見学が行われた。



総会風景

表紙館のご紹介

■瀬戸市美術館

【開館時間】

9:00～17:00（入館は16:30まで）

【休館日】

年末年始（12月28日～1月4日）、
毎月第2火曜日
※展示入替による臨時休館有

【入館料】

特別展、企画展毎に入館料が異なります。
*20名以上の団体は2割引
*中学生以下、障害者手帳をお持ちの方、妊婦、
65歳以上の方は無料

【所在地】

〒489 0884 瀬戸市西茨町 113-3 瀬戸市文化センター内
TEL 0561-84-1093
<http://www.seto-cul.jp/seto-museum/>

【交通手段】

1. お車でご来館の方 ※無料駐車場（524台）あり
<東名高速道路をご利用の方>
東名高速道路「名古屋 I.C.」「長久手 I.C.」を降りて瀬戸方面へ。
グリーンロード「愛・地球博記念公園」、または「八草 I.C.」
まで行き、左折（北）し、瀬戸市街地へ。

<東海環状自動車道をご利用の方>

東海環状自動車道「せと赤津 I.C.」を降りて瀬戸方面へ。

2. 公共交通機関でご来館の方

<JR名古屋駅から>

下鉄東山線で「栄」へ。名鉄瀬戸線に乗り換え
「栄町」から「尾張瀬戸」下車。徒歩13分。



瀬戸市文化センター



美術館内観

「愛知の博物館」 No.110

発行日 令和元年9月5日

編集・発行 愛知県博物館協会

〒461-8525

愛知県名古屋市東区東桜 1-13-2

愛知県美術館内

TEL. 052-971-5511